

23.5.22

大きな魚に育てて

高千穂

高千穂市・押方小「放流遠足」楽しむ

高千穂市・押方小（校長 彦校長、55人）の8年生5人は20日、遠足で同町押方の跡取川地区を訪れ、稚魚放流や魚釣りを経験した。児童たちは地域の豊かな自然に触れながら環境について学習した。

同校から約30名ある跡取川への「放流遠足」は5年目。今年も高千穂市緑地課や押方地区建設業自然の会などが、放流用のヤマメ500匹をばらまき、40匹、ア

マメ30匹の稚魚やホタルの卵をばらまき、約100個を捉供。児童たちは清流に稚魚の成長を願いつつ、バケツを返して放流した。

その後、川をきき止めて設けた釣り堀で釣り体験。釣り堀は高千穂地区公民館が準備したヤマメ約70匹が放流されており、児童たちは校長や担任と一緒に「釣れた」と歓声をあげ、釣りを楽しんだ。

また、近くの同地区公民館館員幸菜一さん（68）の方の水



跡取川にヤマメなどの稚魚を放流する児童たち

車小屋を見学。水車の原理を知る子どもは、昔ながらの脱穀の機も学んだ。佐々木真冬さん（11）は「放流した魚は大きくなるようにしたい。みんなを魚釣りができるといい思い出た」と話した。